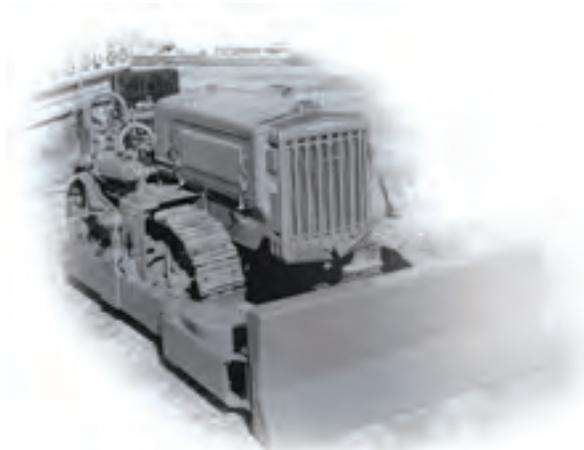


# 小松製作所——コマツの発展



初の国産ブルドーザG40ブルドーザ(小松1型均土機、コマツ栗津工場70周年記念誌『MADE IN AWAZU』より) 2007年日本機械学会の「機械遺産」に認定

昭和三年(一九二八)三月、創業者竹内明太郎は満六八歳で逝去したが、彼の「工業立国」の遺志を継いで小松製作所は発展を続けた。昭和六年国産初のトラクターを完成させ、満州事変、日中戦争の戦線拡大と並行して、

「国策」で満州開拓用トラクターを増産した。昭和十三年に陸・海軍管理工場の指定を受け、栗津工場も新設した。

その後太平洋戦争でさらに軍需が増大し、昭和十八年に国産初のブルドーザーを開発し、十九年九月には従業員数七七〇〇人の他に徴用工や学徒動員工数千人が働く巨大国策工場となった。

しかし敗戦後は、陸・海軍の解体と同時に、徴用工も含めて一万人を超え



コマツ「中興の親」河合良成  
(コマツ栗津工場70周年記念誌『MADE IN AWAZU』より)

る従業員が一時的に「全員解雇」となり、企業再起も危ぶまれたが、深刻な「食料難」克服のため政府はGHQの指導の下「開拓五カ年」政策を実施し、小松製作所もこれに協力してトラク

ター生産体制を整え、企業再建に乗り出した。ところが昭和二十二年にGHQブラウン中佐によるトラクターへのガソリン供給停止命令(ブラウン旋風)が出され、農林省がトラクターの発注を取り消さざるを得なくなると、企業再建は困難となり、しかもこの間、労組の職場闘争は激烈を極め、労働運動史上に残る「百日闘争」も起こった。

この危機的状況の会社を救ったのが「中興の祖」と呼ばれる河合良成である。河合は組合との争議を妥結するや、昭和二十六年には本社機能を東京に移



昭和42年（1967）に完成したころの粟津工場の中型ブル組立ライン（コマツ粟津工場70周年記念誌『MADE IN AWAZU』より）

し、北陸の小松から日本そして世界の  
コマツへと飛躍させる第一歩を築いた。  
さらに昭和三十五年に米国キャタピ



平成21年（2009）8月に小松工場で開催された開放デー（コマツ粟津工場提供）

ラー社の日本進出發表に  
対して、全社挙げて「総  
合的品質管理運動」（T  
QC）で迎え撃ち、最高  
水準の製造力を身に付け  
させた。竹内—河合によ  
って醸成された社の精神  
は、過去のQC手法を集  
大成した「コマツウェイ」  
として全世界のコマツマ  
ンに引き継がれている。

（平野 優）



コマツの小松工場跡地に建設される「研修センター」のイメージ。「里山」や「記念館」も併設される